

Tokyo スイソ推進チーム 水素エネルギー利用の見える化 基本方針（案）

1 基本方針

- 2020 年度の水素エネルギー利用の見える化として、各メンバーの水素 PR に加えて、国内外からの観光客に対して発信するため、以下の取組をチームとして実施します。
 - (1) 観光地等におけるライトアップ、プロジェクションマッピング
 - (2) 水素エネルギーイベント（試乗会、プロジェクションマッピング、ホットドリンク提供）
 - (3) 主要公共交通施設での水素で発電した電気を活用した PR
- 観光地や主要公共交通施設など多くの観光客等が集まる場所で実施します。
- 水素の環境性能・先進性等を PR するとともに、水素が安全なエネルギーとして既に普及している事例を多くの方が体感する機会とします。
- ライトアップなど視覚に訴えるイベントを実施し、水素エネルギーを使用していることを見ている方に分かりやすく PR することで、目に見えない水素を「見える化」し、水素に馴染みのない一般の方々への訴求力を高めます。
- 本事業において、再生可能エネルギー由来の福島県産 CO₂フリー水素を活用することを目指し、福島の復興を国内外観光客に発信します。
- 2019 年度は、各メンバーの水素 PR に加えて、チームとしての 2020 年度の取組の実施に向けたノウハウを蓄積するために、予定する取組の全てを小規模で実施します。

2 2019 年度事業の内容

○見える化イベントについて

(1) 既存の機会を活用したライトアップ&プロジェクション

・実施内容

創エネあかりパーク®2019 において実施する国立科学博物館のライトアップ及びプロジェクションへ電力を供給し、水素及び福島の復興等が視覚的に訴えられる内容とする。

ライトアップ等に併せ展示スペースを設け、メンバーの取組について PR (※)



(イメージ) ライトアップ



(イメージ) 展示スペース



(イメージ) 会場の全体図

・実施場所

上野恩賜公園

・実施時期

2019 年 10 月 31 日（木）～11 月 4 日（月）

※令和元年 7 月 24 日加筆修正

※創エネあかりパーク®については 2018 年度 PR チラシも参照

(2) 水素エネルギーイベント

・実施内容

水素エネルギーを体感できる以下の①～④の内容を併せて実施。

イベント実施に併せ展示スペースを設け、メンバーの取組について PR

- ① FCV を電源・スクリーンとして活用したプロジェクションマッピング
- ② FCV 試乗会
- ③ 水素エネルギーを活用したホットドリンクの提供
- ④ 水素エネルギーを活用したコンサート



(イメージ)自動車を活用したプロジェクションマッピング

・実施場所（候補）

日中だけでなく、夜間も都民の集客力があり、展示スペースを備え、かつ、付近で試乗会が可能な施設。基本方針等の承認後、実行委員会が契約する受託事業者の提案を受け決定

・実施時期

日中だけでなく、夜間も集客力のある時期（12月頃の土日、1日間を予定）

(3) 羽田空港での水素で発電した電気を活用した PR

・実施内容

燃料電池で発電した電力を、観光客の目に留まりやすいモニター等や実際に利用できる充電器等で活用

水素で稼働している点や観光客が水素に触れられる機会を併せてPR

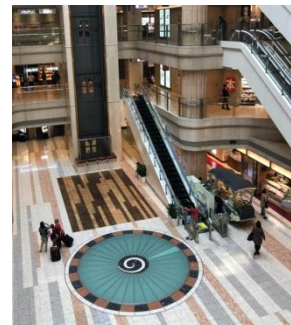
・実施場所

羽田空港国内線ターミナル、羽田空港国際線ターミナル

・実施時期

観光客が多く集まる時期

（9月下旬の4日間程度を予定、今後会場と調整）



(イメージ) PR会場

(4) 既存の機会を活用したコンサートへの電力供給

(2)にて実施の予定

○ 広報について

- (1) 見える化イベント会場での PR
- (2) インターネット（HP、SNS）の活用
- (3) 広報・PR協賛媒体、各団体広報媒体の活用
- (4) その他（マスメディア、交通広告、チラシ等受託事業者からの提案を受け決定）

○ 協賛について

(1) 協賛するイベントの選択

実行委員会参加団体には、協賛を希望するイベントを選択していただき、見える化を連携して実施

(2) 協賛していただいた各団体の名称の掲出箇所等

- ・ チラシ、ポスター等見える化イベントPR用印刷物への協賛者名の掲出
- ・ 実行委員会HPへの協賛者名の掲出（2020年3月31日まで）
- ・ 見える化イベント会場の協賛者ボードへの協賛者名の掲出

○ 実施体制

- ・ 実行委員会参加団体

イベントは実行委員会の主催とし、東京都を共催とする予定

- ・ 見える化イベント運営事業者（実行委員会から委託）

3 その他

- ・ 本取組においては、東京2020大会と関連付けては実施しない予定
- ・ 本取組が東京2020大会と関連付けてない（又はそのように受け取られるおそれがない）とみなされた場合、本取組の中で、各団体のPR（団体名の掲出等）を行うことは可能

※別途認められた場合を除き、直接的であるか、又は間接的であるかを問わず、商品もしくはサービスと、2020年東京大会を関連付けてはならず、そのように受け取られるおそれのある行為は禁止されている

4 2019年度予算

○ 収入の部

（単位：千円）

区分	予算額	摘要
負担金	120,000	東京都負担金
協賛金	550	参加団体協賛金
計	120,550	

○ 支出の部

(単位：千円)

区分	予算額	摘要
開催準備費	28,000	会議開催、計画策定、 広報、その他準備
イベント運営費	92,550	見える化イベント合計
計	120,550	

5 今後のスケジュール

- 2019年6月上旬 実行委員会が委託するイベント受託事業者が決定、
受託事業者の提案を受け詳細を検討
- 7月上旬 事業内容の詳細について事務局からメンバーへ連絡、
協賛募集開始
- 2020年2月 第2回総会（2020年度見える化イベントの基本方針等）

以上